

高齢者雇用奨励金支給制度について

高齢化社会の急速な移行のもとで社会参加を求めているいは生計を目的として就労を希望する人々が増えておりますが、これら六十五歳以上の就労希望者を常雇い(月十六日以上就労)として採用した企業に対し、次の要領で奨励金を交付いたします。

- 一、交付要件 六十五歳以上の就労希望者を常雇いとして採用し奨励金交付期間経過後も引き続き雇う意志のある企業
- 二、支給期間 支給対象者を雇い入れた日の属する月から起算して十二カ月
- 三、奨励金 一人につき一カ月一万円

四、申請手続き 申請は、常時都留市役所商工課(☎二二一〇二五九)で受付けております。

市史編集室から

市史編さん室では、八月から都留文科大学教授松本先生(市史編集委員会委員)始め、文京大学短期大学部講師の増田先生ほか数名により資料の調査、収集を行っております。今年度、順次調査を実施予定の宝、禾生地区の皆さんには市史編さんだよりを通してお知らせしてあります。

調査は一応古文書を中心に行いますが、状況により民俗、民家、

一般交通指導員の委嘱



このほど、都留市一般交通指導員につきの方々を委嘱され、市民の交通指導に当たっております。

牧野 淳 中央二一四一四
曾根岩夫 大野八六三
宮本植三 夏狩一三五三
柳場国夫 上谷二一五三三
志村行雄 古川渡八一九
橋本恒三 朝日馬場四六〇
米山博光 中津森三九五
小林幸夫 上谷五一二一十八

社寺等総合的に一地区同時に行うことも考えております。

なお、市民参加の市史編集をご理解頂くため、市史編集懇談会を開催したり、市史編さんだよりを地区ごとに発行の予定です。

今後も市民の皆さんのご協力をお願いいたします。

優良従業員の表彰

＜都留市商工会＞

商工会では、市内事業所に勤務する従業員の勤労意欲の高揚と資質の向上を図るため毎年優良従業員の表彰を行っていますが、本年も十一月十三日(午後一時三〇分)より文化会館で実施しますので、対象従業員のいる事業所では、推せんしてください。

○表彰対象 (本年四月一日現在)

- (1) 県知事表彰 満二〇年以上勤続者
- (2) 県商工会連合会長表彰 満十五年以上勤続者
- (3) 市商工会長表彰 満三年・五年・七年・十年以上勤続者

○事業所負担金

勤続年数により三千円から一万円まで(記念品の一部とします。)

○推せん申込み

九月十日までに商工会へ
なお、お問い合わせは、商工会事務局(☎二一五七〇)におたずねください。



秋の虫

「虫という字は、昔は、蟲」と書いたんですね。虫がいつぱいいたから虫の字を三つも書いたのかしら」

とある小学生が言ったそうです。もう忘れかけている古い字ですが、なるほど虫がにぎやかに鳴いているようでもあり、ウジャウジャと蠢(うごめ)いているような感じでもあります。

チンチンと鉦(かね)をたたくように鳴くカネタタキ。ガチャガチャと馬がくつわを鳴らすような音をたてるクツワムシ。ウマオイは、スイッチョという音が、馬をしかる時に舌うちする音と似ているからこの名があるとか。コオロギは、肩させ裾(すそ)させと鳴いて秋の深まりを知らせているのだとも言います。スズムシとマツムシの名は、平安時代には、今と反対だったとか。確かに、チンチロリンというマツムシの音は鈴みたいですし、リーリンンというスズムシの音は松風を思わせますから、反対の方が良かったのかもしれない。

風流な日本人は、昔から虫を愛していました。中世京都の嵯峨野辺りでは「虫聞き」が年中行事になっていたとか。江戸時代には、虫売りが、格子の屋台に虫を下げ町を売り歩いていました。今、デパートの金魚売り場辺りで、スズムシ、マツムシ、クツムシ、ワムシなどを売っていますが、虫売りは昔からあったのです。寛政年間(一七八九〜一八〇二)には虫屋が人工飼育していたとも言われます。



虫の音を愛(め)でる日本人の優雅な心をいつまでも失いたくないものです。